

〔 様式記入要領及び記入例 〕

(様式)

- ① 履歴書
- ② 研究業績目録
- ③ 教育・実技・実務等業績目録
- ④ 教育・研究の計画及び抱負
- ⑤ 著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）

履歴書の記入要領

- 1 署名を除いて、ワープロ等で作成すること。（A 4 用紙を用いて、上下左右とも 2 c m 程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること。）
- 2 年号は西暦で記入すること。
- 3 研究業績等において通称名等を使用している場合の氏名については、戸籍名のほか、通称名等を併記してもよい。（例：筑波（水戸）花子又は水戸（戸籍上:筑波）花子 等）
- 4 学歴関係
 - ① 原則として大学以上（高等専門学校の学歴を有する者は高等専門学校以上）を記入すること。
 - ② 中途退学した場合は、「退学」と記入すること。
博士課程を単位取得の上退学した場合は、「単位取得退学」等と記入すること。
 - ③ 外国の大学等の場合は、その国名も併せて記入すること。
 - ④ 研究生等の経歴がある場合は、この段に記入すること。
 - ⑤ 教員免許等の免許を有する場合は、この段の一番下に記入すること。
- 5 学位関係
 - ① 学位名の次に当該学位を授与した大学名を（ ）内に附記すること。
 - ② 博士の学位を有する場合は、修士の学位等の記入は省略することができる。
- 6 職歴関係
 - ① 原則として、常勤の職歴のみとし、職名等を正確に記入すること。ただし、学歴と職歴を通じて空白となる期間があり、その間に非常勤等の職歴がある場合にはこれを記入すること。
 - ② 外国の機関等における職歴の場合は、その国名も併せて記入すること。
- 7 学会活動等関係
本人の専攻、研究分野等に関連した学会活動、社会活動、受賞歴等の事項について、主なもの 5 件以内を記載すること。

履 歴 書

2000年〇月〇日

(ふりがな)

氏 名： 筑 波 花 子 性別： 女
生 年 月 日： 1900年〇〇月〇〇日生（〇〇歳）

現 住 所： 茨城県〇〇市〇〇 1-2

学歴（大学以上）：

1900年4月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科	入学
1900年3月	同 上	卒業
1900年4月	〇〇大学〇〇学部研究生	入学
1900年3月	同 上	終了
1900年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科修士課程〇〇専攻	入学
1900年3月	同 上	修了
2000年4月	〇〇大学大学院〇〇研究科博士課程〇〇専攻	入学
2000年3月	同 上	修了

1900年〇月 教員免許〇〇科Ⅰ種（〇〇県〇〇号）

学 位： 1900年〇月 〇〇博士（〇〇大学） 又は 博士（〇〇）（〇〇大学）
※1991年6月30日以前取得の場合 ※1991年7月1日以降取得の場合

職 歴：

1900年 〇月〇日～1900年〇月〇〇日	〇〇大学〇〇学部非常勤講師
1900年 〇月〇日～1900年〇月〇〇日	（財）〇〇研究所〇〇研究部〇〇室長
1900年 〇月〇日～1900年〇月〇〇日	〇〇大学講師〇〇学部
1900年 〇月〇日～2002年9月30日	図書館情報大学講師図書館情報学部
2002年10月1日～2004年3月31日	筑波大学講師図書館情報学系
2004年 4月1日～2007年3月31日	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授
2007年 4月1日～2011年9月 30日	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科准教授
2011年 10月1日～ 現 在	筑波大学図書館情報メディア系准教授

※本学在籍の場合（例）

法人化前は「筑波大学助教授図書館情報学系」、法人化後（2004年4月から）は「筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授」、2007年4月からは職名が変更したため「助教授」は准教授とすること。

学会活動等：

1900年〇月～ 現在	〇〇学会会員
1900年〇月～1900年〇月	〇〇学会評議員
2000年〇月	〇〇学会〇〇賞受賞

上記のとおり相違ありません。

〇 〇 〇 〇

（自筆署名）

「研究業績目録」の記入要領

- 1 別記様式第4（第3条関係）を用い、署名を除いて、ワープロ等で作成すること。
- 2 書式は、A4判縦とすること。（上下左右とも2cm程度の余白をとること。）
- 3 年号は西暦で記入すること。
- 4 「研究業績目録」には、最近5年間（履歴書の提出日を起算日とする。本学教員の昇任人事の場合は現職就任以降のものが望ましい。）に公表された専門学術著書、学術論文の中から、重要と思われる業績を合わせて5件を記載すること（助教の場合は4件以上、特任助教の場合は2件以上とする。）。ただし、最近5年以前の業績であっても、候補者の業績の中で特に重要な位置付けができるものは1件に限り含めることができる。
- 5 研究業績
 - (1) 専門学術著書
 - (2) 学術論文
 - ア 査読を経て学術雑誌に公表されたもの
 - イ 当該専門領域において、学術的に権威あると認められる雑誌に公表されたもの
 - ウ 査読を経て国際会議録に公表されたもの
 - (3) その他
 - ア 専門学術著書、学術論文以外の著作等
 - イ ソフトウェア、ハードウェア、データベース、書誌等
 - ウ 特許
- 6 「研究業績目録」は最近のものから順に記載すること。（番号を付けること。）
- 7 専門学術著書は、著者リスト、著書名、発行所、頁、発表年月の順に記載し、著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は、著書名の前に分担した章名、頁等を記入すること。
- 8 学術論文は、上記5(2)の記載順に整理し、著者リスト、論文名、雑誌名、巻、頁、発表年月の順に記載すること。本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著の何番目の著者が分かるようにすること。
- 9 印刷中のものは、「印刷中」と明記したうえで記載できる。この場合には発行者側の査読等を経て正式に受理されたことを証明する書類が添付されるとともに、当該研究業績が人事委員会において査読等による審査が可能であること。
- 10 「研究業績目録」の「その他」の欄における「ほか 件」の研究業績は、「著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）（別記様式第7）」に記載した専門学術著書及び学術論文以外の研究業績の件数を記載すること。
- 11 この「研究業績目録」のほかに、「著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）（別記様式第7）」を別途作成のうえ、提出すること。

別記様式第4（第3条関係）

研究業績目録

氏名（自筆署名） ○ ○ ○ ○

20〇〇年〇月〇日現在

専門学術著書

- 1) 筑波花子，茨城太郎： 著書名． ○〇出版， ○〇頁， 2012.3
- 2) 筑波花子：章のタイトル． 著書名（編者名）， ○〇出版， ○〇～○〇（最初と最後の頁）， 2010.6

学術論文

- 1) T.Ibaraki, J.Tsukuba, H.Tsukuba, （共著者名○人省略）：論文名． 雑誌名， 巻， ○〇～○〇（最初と最後の頁）， 2012.1
- 2) 茨城太郎， 筑波花子：論文名． 雑誌名， ○〇出版， ○〇～○〇（最初と最後の頁）， 2010.10
- 3) H.Tsukuba：論文名． 国際会議名， ○〇～○〇（最初と最後の頁）， 2009.8

※ 専門学術著書、学術論文に該当する研究業績がない場合は、項目自体を削除すること。

その他

専門学術著書○件

学術論文○件

ほか

○件

「教育・実技・実務等業績目録」の記入要領

- 1 別記様式第5（第3条関係）を用い、署名を除いて、ワープロ等で作成すること。
- 2 書式は、A4判縦とすること。（上下左右とも2cm程度の余白をとること。）
- 3 年号は西暦で記入すること。
- 4 「教育・実技・実務等業績目録」には、
 - i 研究業績を主に審査する場合：最近5年間の実績のうち主要なものを5件以内
 - ii 教育業績及びその他の業績を主に審査する場合：最近5年間の実績のうち主要なものを5件下記6の業績種別ごとに記載すること。ただし、最近5年以前の教育業績・その他の業績であっても、候補者の業績の中で特に重要な位置付けができるものは1件に限り含めることができる。
- 5 「教育業績目録」に記載するもののほか、授業評価、学生指導実績等の記録、証拠等を別添資料として付け加えてもよい。
- 6 記載にあつては、次の順に記載すること。
 - （教育業績）
 - (1) 教育実践業績（教育評価を含む。）
 - ア 「授業担当等」には、在職大学名、学部・学科（学群・学類）・大学院及びその他（公開講座等の担当）における一般教育及び専門教育の講義・演習・実習・セミナー等の担当のうちから、主要なものを選んでその担当単位数又は時間数を記載する。
 - イ 「委員会委員等」には、入試、カリキュラム、学生生活（厚生補導）、就職等の委員会委員、学生担当、クラス担任及び課外活動の指導等の教育関係の実績を記載する。
 - ウ 「その他」には、在職機関以外における教育関係の活動（非常勤講師等）を記載する。
 - (2) 学位論文指導（博士前期課程、博士後期課程）実績
 - (3) 学生生活支援等における顕著な活動実績
 - (4) 学内共同教育研究施設等における業務実績
 - (5) その他
 - （その他の業績）
 - (1) 組織運営について
大学等組織の管理運営における顕著な活動実績
 - (2) 実務経験等
 - ア 社会における実務業績
専門学術著書、学術論文以外の著作等
 - a 教科書
 - b 副読本、講習用教材等
 - c 総説、解説文等
 - d 辞書、事典等
 - e 啓蒙書、実務関係書、実務関係報告書等
 - f 翻訳
 - g ソフトウェア、ハードウェア、データベース、書誌等
 - イ 国際的学術活動
 - (3) 共同研究、受託研究等の活動
科研費等研究プロジェクト実績
 - (4) 学会活動
 - (5) 社会的活動
審議会委員などの業績
 - (6) 特許等
- 7 「教育・実技・実務等業績目録」は最近のものから順に記載すること。（番号を付けること。）
- 8 「教育業績及びその他の業績を主に審査する場合」は、この「教育・実技・実務等業績目録」のほかに、「教育・実技・実務等業績の全業績一覧（別記様式第8）」を別途作成のうえ、提出すること。
ただし、「研究業績を主に審査する場合」は、「教育・実技・実務等業績の全業績一覧（別記様式第8）」について提出する必要はない。

教育・実技・実務等業績目録

氏 名 (自筆署名) ○ ○ ○ ○

20〇〇年〇月〇日現在

(実 績)

(期 間 等)

教育業績

教育実践実績

授業担当等

- | | | | | | |
|----|-------------------------|-----------|------|---|------|
| 1) | ○○大学○○学部○○学科（学群、学類）において | | | | |
| | ○○学概論 | 2単位 | 2008 | ～ | 現在 |
| 2) | □□大学□□学部□□学科において | | | | |
| | □□学概論 | 2単位 | 2008 | ～ | 2010 |
| | ・ ・ ・ ・ ・ | ・ ・ ・ ・ ・ | | | |
| | ・ ・ ・ ・ ・ | ・ ・ ・ ・ ・ | | | |

委員会委員等

- 1) ○○大学学生担当教室室員 2010 ～ 現在

その他

- 1) ○○大学○○学部非常勤講師（「英文学」 1 単位） 2008 ～ 現在
 ・ ・ ・ ・ ・

その他の業績

實務經驗等

- 1) 社会における実務業績 2010 ～ 現在

社会的活動

- 1) ○○県教育委員会生涯教育専門委員会委員 2010 ～ 現在

※「教育・実技・実務等業績目録」の記入要領6の記載順に記入とし、該当がないところは、項目自体を削除する。

※「その他の業績」は、その内容について、それぞれ数行記載すること。

「教育・研究の計画及び抱負」の記入要領

- 1 別記様式第6（第3条関係）を用い、署名を除いて、ワープロ等で作成すること。
- 2 書式は、A4判縦とすること。（上下左右とも2cm程度の余白をとること。）
- 3 本学における教育、研究又はその他の任務等（管理運営、診療等において課せられる任務、又は主として研究若しくはセンター等における業務に従事する場合において課せられる任務等をいう。）のうちから、関係する項目を取り上げ、それらを充実させるための自らの計画及び抱負を自由に記載すること。

「著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）」の記入要領

- 1 別記様式第7を用い、研究業績の全てを記入すること。
- 2 署名を除いて、ワープロ等で作成すること。
- 3 書式は、A4判縦とすること。（上下左右とも2cm程度の余白をとること。）
- 4 年号は西暦で記入すること。
- 5 「著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）」は最近のものから順に記載すること。（番号を付けること。）
- 6 研究業績目録に記載したものは、番号の前に○を付すること。
- 7 専門学術著書は、著者リスト、著書名、発行所、頁、発表年月の順に記載し、著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は、著書名の前に分担した章名、頁等を記入すること。
- 8 査読付学術論文及び査読付国際会議論文は、下記1.1(2)及び(3)の記載順に整理し、著者リスト、論文名、雑誌名、巻、頁、発表年月の順に記載すること。本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。
- 9 印刷中のものは、「印刷中」と明記したうえで記載できる。この場合には発行者側の査読等を経て正式に受理されたことを証明する書類が添付されること。
- 1.0 「その他」の業績の記載は、上記7、8に準ずること。
- 1.1 記載にあつては、次の順に記載すること。
 - (1) 専門学術著書
 - (2) 査読付学術論文
 - ア 査読を経て学術雑誌に公表されたもの
 - イ 当該専門領域において、学術的に権威あると認められる雑誌に公表されたもの
 - (3) 査読付国際会議論文
 - 査読を経て国際会議録に公表されたもの
 - (4) その他
 - ア 査読付学術論文、査読付国際会議論文以外の著作等（口頭発表、ポスター発表及び予稿集（要旨集・概要集）等）は含めない。
 - イ ソフトウェア、ハードウェア、データベース、書誌等
 - ウ 特許として認められたもの
- 1.2 参考として以下の項目についても記載すること。
 - ・招待講演等（国際会議、学会等における招待講演や基調講演）
 - ・外部資金獲得状況（研究代表者のみ）

著書、論文等の全業績リスト（全研究業績一覧）

氏 名 （自筆署名）

20〇〇年〇月〇日現在

専門学術著書

- 1) 筑波花子，茨城太郎： 著書名． 〇〇出版， 〇〇頁， 2012.3
- 2) 筑波花子：章のタイトル． 著書名（編者名）， 〇〇出版， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2010.6
-
-

査読付学術論文

- 1) T.Ibaraki, J.Tsukuba, H.Tsukuba, （共著者名〇人省略）：論文名． 雑誌名， 巻， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2012.1
- 2) 茨城太郎，筑波花子：論文名． 雑誌名， 〇〇出版， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2010.10
-
-

査読付国際会議論文

- 1) H.Tsukuba：論文名． 国際会議名， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2009.8
-
-

その他

査読無学術論文

- 1) 茨城太郎，筑波花子，「〇〇について」， 〇〇大学文学部『〇〇紀要』16 集， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2013.10
-

査読無国際会議論文

- 1) H.Tsukuba：論文名． 国際会議名， 〇〇～〇〇（最初と最後の頁）， 2009.9
-

【参考】

- ・招待講演等（国際会議、学会等における招待講演や基調講演）
 - 1) 「〇〇について」（〇〇学会第 3 回年次大会基調講演）， 2014.3， 〇〇大学
 - 2) 「〇〇の研究」（〇〇学会第 24 回総会招待講演）， 2013.8， 〇〇研究所
- ・外部資金獲得状況（研究代表者のみ）
 - 1) 平成 2 6 年度～平成 2 8 年度 科学研究費 （基盤研究 B）
「〇〇の研究」
1,500 万円（うち直接経費 1,154 万円）
 - 2) 平成 2 3 年度～平成 2 5 年度 科学研究費 （基盤研究 C）
「〇〇に関する研究」
299 万円（うち直接経費 230 万円）